



えいち

叡智と愛 2.0

臼杵市立北中学校
校長通信 NO.27
令和7年11月17日
文責:戸高浩二

北中生へ

シン・文化祭 2.0 を終えて…

偉せに満ちあふれた時間 ※「偉せ」は人とつながることで生まれるしあわせという意味があります

昼過ぎ。クラスや学年の仲間が心を一つにして合唱練習をしている。シン・探究 2.0 で、真剣な眼差しで夢中になって作品を創っている。各カテゴリーのメンバーが「こうしよう」「いや、こうした方がいい」とアイデアを出し合っている。仲間といろんな話題で盛り上がって笑っている。

シン・文化祭本番。クラス・学年の仲間がこれまでやってきたことを出し切って歌っている。シン・探究 2.0 の成果を渾身の力をこめて発表している。個人や仲間で歌やダンス、演奏、コントなど、得意な芸を精一杯表現している。そして…本番終了後。クラスに戻って、担任・仲間と涙を流している。

この2週間、毎日、北中生が仲間と夢中になって挑む姿を見ることができた。本番では一人ひとりが光り輝いていた。それを間近で見ることができた。「偉せに満ちあふれた時間」とは、こういう時間をいうのだろう。

メディア・映像チーム:オープニング・エンディング映像

映像を制作する際、大切なことはイメージする力だと思う。全体をどうまとめるのか。流れをどうするのか。内容に合う音楽は何か。観ている人は何を求めているのか…。いろんなことを具体的にイメージして創り上げる。今回のオープニング・エンディング映像には自分たちがイメージしたことをみせたクオリティの高い作品だった。映像のメンバーが編集と撮影の役割を分担し、それぞれが、自分の仕事を確実にこなしたからこそ創り上げることができた見事な作品だった。



美術部:ステージ画

城にたどり着いた中学生と豪壮な城。絵の世界に吸い込まれ、実際に城の前に立っているように思えるほど、精巧をきわめた作品に感動した。そして、絵に込められた思いを聞いて、私の心は感動から感銘に変わっていた。



※感銘…忘れないほどの深い感動を受けること

昨年度のステージ画には「知識」「挑戦」「希望」など、いろんな要素がちりばめられていた。そして、絵の周りは「未来」をイメージした道が描かれていた。その「未来」の道の先にあったのが、今年度のステージ画の城だ。「希望」を手にし「進化」した中学生がこの後、この城に入ってさらにどんな「進化」をとげるのか？そんなワクワクした気持ちになる、魅力にあふれたステージ画だった。

まちづくり:「提案力」と「うすき愛」

今の臼杵の現状を分析し、今後の解決すべき課題を考えいく。その課題を解決するため調査・体験・インタビューをしながら、深めていく。終盤は課題解決に対して自分たちができる考えを考えて提案する。ただ、調べて発表するといった単純な学習でなく、スタートからラストまで、しっかり計画し、一つひとつ丁寧に探究した過程がうかがえた。そして、それぞれのグループが、中学生らしい、若く自由な発想で、キャラクターやポスターをつくったり、八町大路の復興のためにできることを考えたりして「提案」した。この「提案」までいきついた探究はとても価値がある。なにより、メンバーの「うすき愛」を強く感じた。



校長通信NO.28に続く